

## 第 20 回岩手県スポーツ推進審議会議事録

日時：令和 2 年 2 月 13 日（木）10:00～12:00

場所：盛岡市勤労福祉会館 401・402 会議室

### 出席者

#### ○スポーツ推進審議会委員

中嶋 敦 委員 小山田 浩之 委員 平藤 淳 委員 菊池 勝彦 委員  
二階堂 聡 委員 高橋 敦子 委員 上濱 龍也 委員 高林 江美 委員  
早野 みさき 委員 綱嶋 久子 委員 長屋 あゆみ 委員

#### ○岩手県文化スポーツ部

菊池文化スポーツ部長

文化スポーツ企画室 中村企画課長 八巻主任主査

オリンピック・パラリンピック推進室・ラグビーワールドカップ 2019 推進室

高松連携調整課長 木村総務担当課長

スポーツ振興課

藤田参事兼スポーツ振興課総括課長

星野主幹兼生涯スポーツ担当課長

横坂競技スポーツ担当課長兼上席スポーツ振興専門員

藤原主任主査 三ヶ田主任主査

久保主査スポーツ振興専門員 梅津主査

伊藤主査スポーツ振興専門員 佐々木主事

#### ○岩手県教育委員会事務局

保健体育課

清川総括課長 熊谷主任主査

橋本主任指導主事

### (藤田参事)

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

進行を務めますスポーツ振興課総括課長の藤田でございます。よろしくお願いいたします。

本日の出席者でございますが、委員 13 名中、過半数 11 名の御出席を頂いております。

なお、本日御欠席の御連絡がございますのは、資料 3 枚目の岩手県スポーツ推進審議会委員名簿のとおりでございまして、菊池委員様、今野委員様から御欠席の御連絡を頂戴しております。「岩手県スポーツ推進審議会条例」第 4 条第 2 項の規定により、本審議会が成立いたしますことを御報告申し上げます。

また、先に御案内申し上げましたとおり、「審議会等の会議の公開に関する指針」により、本日の会議は、全て公開といたしますので、予め御了承くださいますようお願いいたします。

なお、本審議会の資料については、事前にお送りしておりました資料に加えまして、追加資料として、委員名簿、配席図、そして A 3 判のカラーの資料を 3 枚机上に配付しております。資料が無い場合、恐縮ですが挙手にて事務局までお知らせ願います。

## 1 開会

### (藤田参事)

それでは、ただ今から、第20回岩手県スポーツ推進審議会を開催いたします。  
はじめに岩手県文化スポーツ部長の菊池から御挨拶申し上げます。

## 2 挨拶

### (菊池文化スポーツ部長)

改めまして、おはようございます。年度末が迫っております、お忙しいところをお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。この時期になると、会議等が立て込んでございまして、朝早くからの開催となってしまったところではありますが、宜しく願いいたします。

日頃から本県のスポーツの振興、そしてこの審議会の運営につきまして、皆様方の温かい御理解と御協力を頂いており、改めて感謝を申し上げます。

皆様御案内のとおり、昨年のラグビーワールドカップ2019<sup>™</sup>の釜石市での開催、そして今年はいよいよ東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京2020大会」）が開催されるということで、スポーツが県民にとっても身近なものになってきているなどひしひしと感じております。

加えて、これもまた皆様方御案内のとおりでございますが、多くの本県ゆかりのアスリートが世界で活躍していることについて、今まで岩手県でこれほどまでのことがあったのかと思うほどの状況であり、改めてスポーツというのはすごいパワーを持っているなということを感じています。

特にも、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会以降の盛り上がりが素晴らしく、国体を受けて各界の皆様方に選手強化等の様々な取組をしていただき、その中でしっかりと花を咲かせてきているなど思っております。その点につきましても、改めて感謝を申し上げます。

このトップアスリートの活躍を支えているのは、まさに日頃皆様方が、若い世代から高齢者に至るまで、裾野を広く、まさに草の根活動とも言うべき活動のおかげであり、本県において、スポーツの振興、スポーツの推進というものがより身近なものになってきた証左であると思っております。

東京2020大会も契機として、こういったうねりをさらに推進し、生涯に渡って健康で、幸せを感じるような日常生活が県民の中に、しっかりと定着していくということを我々は願っているところです。

いわて県民計画においても、そういった視点で、基本目標として、県民が幸せをみな実感できるように、実現できるように取り組んでいこうというところです。スポーツ振興もしっかりとその役割を果たしていこうという理念の下、昨年、皆様の御協力のもと、この新しい「岩手県スポーツ推進計画」を策定させていただきました。

今日は、今年度の取組を振り返って、どんなことがあったかということや、不足しているところがあったか、更に取り組むべきことはないかといったことを意見交換していただきたいと思っております。また、先週当初予算案について知事から発表させていただきましたが、来年度の4月からのスポーツ振興に係る取組について重点的なことを中心に御説明申し上げます。

その内容について、実行面において配慮すべき点や、更に注力していくべき点など、様々な御意見、御示唆を頂きたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしく願いいたします。

**(藤田参事)**

続きまして、平藤 淳 会長から御挨拶をお願いします。

**(平藤会長)**

会長を仰せつかっております平藤です。どうぞよろしくをお願いします。

今の菊池部長からの御挨拶にございましたとおり、県内が大いに盛り上がっているなどという感じがしております。皆様のおかげだと思います。

昨年といたしますか、今年度から、私たちが作成しました、新しい「岩手県スポーツ推進計画」が走り出し、新しいステージに入った時期なのだろうなどというように見ておりますし、先程菊池部長の御挨拶でありましたとおり、去年のラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>釜石開催、今年の東京2020大会、そして来年は関西でワールドマスターズゲームズがありまして、ゴールデンスポーツイヤーズのスタートにふさわしい計画が立てられたと認識しております。どうぞ今年の動き方、あるいは来年からの動かし方について、委員の皆様から様々な御意見を頂きたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

**(藤田参事)**

ありがとうございました。

新任の委員を御紹介いたします。齋藤委員に代わりまして、令和2年2月7日付けで就任されました、岩手県商工会議所連合会理事 小山田 浩之委員でございます。

**(小山田委員)**

小山田です。

どうぞよろしくお願いいたします。

**3 議事**

**(藤田参事)**

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

これより先の議事については、平藤会長に進行をお願いいたします。

それでは、よろしくお願いいたします。

**(平藤会長)**

それでは、次第に従いまして、早速ですが、「3 議事」に入ります。

(1)「いわて県民計画(2019～2028)」第1期アクションプランの進捗状況について、事務局から説明をお願いいたします。

**(星野主幹兼生涯スポーツ担当課長)**

スポーツ振興課の星野でございます。

私のほうから、最初に説明させていただきます。

資料に訂正があります。次第、資料 No. 1の「岩手県民計画(2019～2028)」第1期アクションプランの進捗状況と書くべきところに誤字がございまして、誤った表記になっております。進捗状

況ということで文字の訂正させていただきたいと思えます。

それでは、座って御説明をさせていただきます。

今年度を初年とするいわて県民計画でございます。この第1期アクションプランについてでございますが、前回は御説明させていただきましたとおり、「復興推進プラン」、「政策推進プラン」、「地域振興プラン」、「行政経営プラン」と4つのプランから成っております。この中でスポーツに関連する政策推進プランの中から、本日関連の3つの政策分野について御説明をさせていただきます。この政策推進プランの中には、10の政策分野がありまして、スポーツの関連につきましては、資料No.1の1ページ「Ⅰ 健康・余暇」、2、3ページの「Ⅲ 教育」、4ページの「Ⅳ 居住環境・コミュニティ」となっております。

私のほうからは、まずは1ページの「Ⅰ 健康・余暇」の「4 幅広い分野の文化芸術に親しみ、生涯を通じてスポーツを楽しむ機会を広げます」について御説明をさせていただきます。この分野では、県が取り組む具体的な推進方策として、①から③のとおり、3つ掲げております。

①は、「ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実」ということで、ラグビーワールドカップ 2019<sup>TM</sup>の開催や、今年の東京 2020 大会に向けて県民のスポーツへの関心は高まっている一方で、働く世代のスポーツの実施率が低いというような課題がございます。今後の方向としては、若年期から高齢期までのライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会と充実を図るために、身近な地域でのスポーツ活動を推進する総合型地域スポーツクラブの活性化に取り組んでいくこととしております。

②の「障がい者スポーツへの参加機会の充実」につきましては、障がい者スポーツへの参加を充実させるため、それを支える組織の強化・充実が課題となっております。これを捉まえて、今後の方向は、一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会と各市町村が連携し、障がい者スポーツを支える組織を核としてスポーツ大会やスポーツ教室、そして身近な地域での障がい者スポーツへの参加の普及・拡大に取り組むとしております。

③の「岩手発の「超人スポーツ」の創出等によるスポーツ参加の機会の拡大」につきましては、これは障がいのある人もない人も共にスポーツを楽しむ機会が必ずしも多くないというような課題を踏まえ、年齢や身体能力、障がいの有無にかかわらずスポーツを楽しむツールとして、有望な「超人スポーツ」というものを大学等の研究機関と連携しながら、ワークショップ等を行いながら新たなスポーツを創出して、共に楽しめるスポーツの普及・拡大を図るということとしております。

この表の下段が反映結果という形で表記をしております。これは、来年度の当初予算案の計上をし、県議会へ提案した状況を書いているものでございます。＜既存事業の拡充＞の1つ目でございますけれども、ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実を図るために、「生涯スポーツ推進費（地域スポーツ推進事業）」を拡充し、総合型スポーツクラブの育成や指導者養成を行うとともに、新たに中学生の部活動等は総合型クラブとの連携の在り方等を研究するための調査費等を計上しているところでございます。

2つ目は、スポーツを楽しむ環境を整備するということで、「スポーツ施設設備整備費（盛岡南公園野球場（仮称）整備事業）」を拡充して、現在盛岡市と共同で進めております新野球場の整備を進め、スポーツを楽しむ環境整備を図ろうとするものでございます。

3つ目は、障がい者スポーツへの参加機会を充実させるために、障がいのある人もない人も共にスポーツを楽しむ機会の充実を図るために、「スポーツを通じた共生社会づくり推進費」を拡充します。具体的には、後ほど岩手県スポーツ推進計画の状況のところでも御説明いたしますが、スポ

ーツ用車椅子等の障がい者用スポーツ用具の整備等によって環境を整えていくというような内容になっております。

4つ目でございますが、本県選手の競技力向上と県民の健康増進を図るために、「いわてアスレティックトレーナー」の養成と、障がい者アスリートへのトレーナー派遣等の強化をするということになっております。

また、その他の取組としては、「超人スポーツ」の新たな競技の創出や普及・拡大、そしてスポーツ医・科学の知見を生かした健康づくりや競技力向上等を図るために、官民一体のスポーツ推進体制として新たに「いわてスポーツ推進プラットフォーム」を令和2年度に立ち上げるべく、その予算を計上しているところでございます。

次に、「Ⅲ 教育」の説明に移ります。

### （清川保健体育課総括課長）

県教育委員会保健体育課の清川と申します。続けて御説明申し上げます。

資料No. 1の2ページを御覧ください。大きなくくりでは、「Ⅲ 教育」の分野でございます。

「【体育】児童生徒の健やかな体を育みます」というところの進捗状況について、御説明を申し上げます。取組課題は、①から③の3つでございます。

初めの「① 豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実」についてでございますが、本県の児童・生徒の体力・運動能力は、ここ数年、全国でも常に上位に位置しておりますが、全国体力・運動能力調査によりますと、体力に若干低下傾向も見られ、運動する子としない子の二極化が進む傾向があるということ等の課題も見られますので、引き続き体力向上を図る取組やスポーツ・体力への興味・関心を持たせることが必要であると考えております。

今後の方向といたしましては、学校・家庭・地域が連携・協働いたしまして「希望郷いわて 元気・体力アップ60運動」を推進していきたいと考えております。

また、運動が苦手な児童生徒に対しても、スポーツへの興味・関心を一層深められるように体育授業の改善などに取り組んで参りたいと思っております。

「② 適切な部活動体制の推進」についてでございますが、現在各校毎に部活動の方針を定めておりまして、それにより、適切な部活動を狙いながら進めていただいているところでございます。更にこの活動体制を推進していくために学校と保護者、外部指導者等が共通理解を図っていくことが必要であると考えております。望ましい部活動に繋げるため、その取組を進めて参りたいと考えております。

「③ 健康教育の充実」についてでございますが、本県では長年、肥満傾向児の出現率が高いといった課題が続いております。将来の生活習慣病などに繋がる健康リスクを未然に防止するために、一人一人の実態を見極めながら、学校、家庭が連携した改善の取組を進めて参りたいと考えております。

これら3つの課題、項目それぞれの取組を進めまして、児童・生徒の健やかな体の育成に努めて参りたいと考えております。

下の反映結果についてでございますが、新規事業の創設につきましては、一つ目のところでございますが、近年中学生の部活動は生徒数の減少等によって学校単位での活動が困難な状況にあります。また、学校外でスポーツや文化活動に取り組む生徒が多く見られるようになってきていることから、それらの実態、課題等を把握して、今後の中学生の部活動の方向性を検討したいと考えております。

そのために県教育委員会、関係団体及び有識者による研究会を設置するものでございます。

既存事業の拡充につきましては、部活動の質的向上、そして教員の負担軽減を図るため、平成30年度から始められた部活動指導員の配置について、その拡充のための取組を進めて参りたいと考えております。

その他の改善強化等につきましては、記載のとおりでございます。

以上で説明を終わります。

### **(横坂競技スポーツ担当課長)**

スポーツ振興課の横坂と申します。

続けて説明をさせていただきます。

資料No. 1の3ページを御覧になってください。「Ⅲ 教育」「19 文化芸術・スポーツを担う人材を育てます」についてでございますが、県が取り組む具体的な推進方策としましては4つ。「① アスリートの競技力の向上」、「② 障がい者アスリートの競技力の向上」、「③ スポーツ医・科学サポートを通じた競技力の向上」、「④ スポーツ活動を支える指導者等の養成」ということで、4本の推進方策ということになっております。

「① アスリートの競技力の向上」につきましては、国際大会等で活躍するトップアスリートの育成ということで、スーパーキッズの取組、中央競技団体等との連携強化、スポーツ医・科学の活用に取り組んでいきます。

2つ目の「② 障がい者アスリートの競技力向上」につきましては、障がい者アスリートの更なる発掘・育成や、介助者等を含めた競技活動のサポートということで、障がい者アスリートが参加する大会へのトレーナーの派遣、それから、各競技の指導者による巡回指導等に取り組む、障がい者アスリートが専門指導を受ける機会の充実を図っていくところでございます。

3つ目の「③ スポーツ医・科学サポートを通じた競技力の向上」につきましては、本県アスリートのスポーツ医・科学サポートを通じた効果的な競技力の向上を図るということを目指し、研修会等を実施しまして、選手の個々のセルフマネジメント能力の向上、指導者の一層の資質向上に取り組んでいるところでございます。

4つ目の「④ スポーツ活動を支える指導者等の養成」につきましては、選手・指導者の知識・技術の底上げを図るため、アスレティックトレーナー等のアスリートや障がい者アスリートを支える人材の育成に取り組んでいるところで、「いわてアスレティックトレーナー」等の養成に取り組んでいくとともに、女性トレーナーによるサポートの活動の拡充や、スポーツ・インテグリティの確保などに取り組んでいくところでございます。

令和2年度の新規事業としましては、障がい者アスリートの競技選択や活動機会の充実を図るため、「パラアスリート拡張支援事業」を創設しております。これにつきましては、後ほど説明をさせていただきます岩手県スポーツ推進計画の取組のところで、詳細の説明をさせていただきます。

既存事業の拡充したものとしましては、本県トップアスリートの競技力向上に向けた活動を支援するため、「オリンピック選手等育成・強化事業費」及び「いわて競技力向上事業費」を拡充しておりますし、本県の競技力向上と県民の健康増進を図るために「スポーツ医・科学サポート事業」の拡充、その中で特に「いわてアスレティックトレーナー」

の養成というのを行っていきます。これにつきましても、後ほど説明します岩手県スポーツ推進計画の取組状況の説明のところで詳細の説明をさせていただきます。

以上です。

### （高松連携調整課長）

オリンピック・パラリンピック推進室兼ラグビーワールドカップ推進室の高松でございます。どうぞよろしくお願いたします。

まず、昨年ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>岩手・釜石開催に当たりまして、皆様の御支援、御協力を頂き、無事成功裏に終えることができました。この場をお借りしましてお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

それでは、引き続き資料を着座にて説明させていただきます。4ページのところを御覧ください。

「IV 居住環境・コミュニティ」、「26 文化芸術・スポーツを生かした地域をつくります」の「① スポーツを生かした人的・経済的な交流の推進」についてでございますが、「課題」に掲載しておりますとおり、ラグビーワールドカップや東京2020大会の様々な取組を一過性のものとせず、また遡れば2016年の「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」のレガシーもしっかりと継続させながら、スポーツによる人的・経済的な交流につなげていくことが必要と考え、右の欄のとおり今後の方向を定めております。

まずは、多くの県民がラグビーワールドカップや東京2020大会の価値を共有できるよう、東京2020大会関連では広域的な取組を実施して参ります。また、釜石鶴住居復興スタジアムを活用したスポーツイベントの開催や、ラグビーワールドカップ等を契機した国際交流の取組の継続、そしてスポーツ大会・合宿誘致など、スポーツを通じた人的・経済的交流の拡大に努めて参ります。

具体的な事業について下の反映結果の欄に記載してございますが、まず新たに「ラグビー県いわて推進事業」を創設いたします。この事業では、ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>釜石開催のレガシーを生かしまして、ラグビーの試合やスポーツ選手との交流などを含めたメモリアルイベントの開催、それからこれまでの絆を生かしての県外、海外とのラグビーや文化交流などの事業を企画、展開して参ります。

また、既存事業では、東京2020大会関連といたしまして、「復興五輪ムーブメント推進事業」を拡充して実施して参ります。ここ数年、本県では希望郷いわて国体・希望郷いわて大会、そしてラグビーワールドカップと全国的、世界的なスポーツの祭典というものを実施して参りました。このような大きなスポーツイベント時には、東日本大震災津波で被災したときに頂いた復興支援への感謝の思い、そして復興している姿を県内外に発信する絶好の機会であると捉えておりました、一人でも多くの県民の皆様に参画していただけるよう取り組んできたところでございます。

そして、いよいよ今年は東京2020大会の年でございまして、より一層県民の皆様に参画していただく機会を設けて参りたいと考えております。

ホストタウン関係では、先週2月7日、復興「ありがとう」ホストタウンに登録された矢巾町を含めまして、県全体で19の市町村、そして登録件数が20件に上りまして、件数では現在のところ本県の集計では全国第2位となっております。なお、第1位は東京都でござ

ございます。こうしたホストタウン等の交流事業等を推進して参りたいと考えております。

また、聖火関連につきましては、6月17日から19日までオリンピック聖火リレー、そして8月13日から17日までのパラリンピックの聖火フェスティバルの準備・運営を行う予定としております。事業の詳細につきましては、次の岩手県スポーツ推進計画のところで詳細を説明させていただきます。

これらの事業を確実に実施していくために、一番下の〈その他の取組の改善強化等〉の欄の1つ目に掲載してございますように、ラグビーワールドカップ終了後に設置いたしました「オリンピック・パラリンピック推進室」が、今まさにワンチームとなって取り組んでいるところでございます。

以上で説明を終わります。

#### **(星野主幹兼生涯スポーツ担当課長)**

引き続き4ページについて付け加えて御説明させていただきますと、〈既存事業の拡充〉のところに、ラグビーワールドカップ、東京2020大会関連以外で、スポーツを通じた地域活性化を推進するためということで、スポーツクライミングの拠点化を目指した施設整備として、現在、ボルダリング施設を県営運動公園内に整備しております。そのボルダリング施設が来月完成予定で、そのこけら落とし大会を兼ねたコンバインドジャパンカップという大会を開催いたします。コンバインドというのはスポーツクライミングのボルダリング、リード、スピードの3種目を競う複合競技のことをコンバインド競技と呼び、この競技は、今回の東京2020大会で初めて正式競技に採用されたものでございます。

日本代表選手が東京2020大会前の最後に国内で調整する大会というようにも位置づけられると考えておりますので、この大会の運営等に係る費用として「スポーツクライミング推進事業費」の予算を拡充して計上しているところでございます。

以上、補足でございました。

説明を終わります。

#### **(平藤会長)**

ただ今の説明に対して御質問ございますか。

詳細については、次の岩手県スポーツ推進計画の資料の中にありますので、そちらに併せて質問していただいても結構です。

現時点での質問というのがなければ進行を続けますが、よろしいですか。

「はい」の声

#### **(平藤会長)**

ありがとうございます。

それでは、議事1の「いわて県民計画(2019～2028)」第1期アクションプランの進捗状況については、以上といたします。

次に、議事(2)の「岩手県スポーツ推進計画」の取組状況について、事務局から説明をお願いし



ます。

### (星野主幹兼生涯スポーツ担当課長)

引き続き説明をさせていただきます。

岩手県スポーツ推進計画についてございますが、まず新しい委員さんもございますので、改めて計画の概要を説明した後に、資料No. 2に基づいて説明をしていきたいと思っております。

本日お配りしましたA3判の青いカラー刷りの資料を御覧いただきたいと思っております。「岩手県スポーツ推進計画」の概要でございます。平成30年度にこの岩手県スポーツ推進審議会で委員の皆様様の様々な議論、意見等を踏まえて策定させていただきました。

計画の位置づけについて、先ほど御説明しました「いわて県民計画」に示している目標や取組を具体化する個別計画となっております。スポーツ基本法第10条の規定に基づく地方スポーツ推進計画ということになっています。

計画期間は2019年度から2023年度までの5年間ということでございます。目指す姿は、「スポーツの推進による県民誰もが健やかで輝く岩手の創造」ということになっております。それぞれ、この目指す姿を達成するために、矢印で示しておりますとおり、「1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進」から「4 地域を活性化させるスポーツの推進」、そしてその中に主な取組内容を記載しております。「1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進」のところであれば、「(1) スポーツ参画人口の拡大」から「(5) スポーツを楽しむ環境の整備」というように整理をしております。本日、資料No. 2で説明をさせていただくのが、この4本の施策の柱の中の括弧で表記している項目毎に沿って御説明をさせていただきます。

それでは、恐れ入りますが、資料No. 2を御覧ください。

1つ目の施策の柱、「1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進」でございます。指標については、目標値を現時点のものを掲げさせていただいております。実績値については、次回、来年度6月のスポーツ推進審議会でご報告をさせていただきたいと思っております。

そして、「(1) 主な取組の内容」でございますが、①から⑤を2ページ以降で御説明をさせていただきます。

資料を1枚おめくりいただきまして、2ページを御覧ください。まずは、「① スポーツ参画人口の拡大」でございます。ここには6つの事業を掲げております。

「生涯スポーツ振興事業」では、スポーツを楽しむ機会の充実を図るため、岩手県スポーツ振興事業団に委託し、スポーツ教室やスポーツイベント、指導者講習会等を開催しております。今年度の実績としては、スポーツフェスティバル2019で16,500人弱の参加があったところですが、残念ながら台風19号の時期と重なったもので、前年度に比べては若干参加者が少なかったような状況になっております。また、武道教室につきましては、県営武道館を中心に8種目を通年で開催しているところでございます。来年度以降の取組の方向といたしますと、引き続き事業団に委託をして、このような機会の提供を、県営スポーツ施設を中心に提供してまいります。その中で工夫することとして、この1の「また、」以降に記載しているところですが、仕事の後に働く世代の方々や親子で気軽にスポーツを楽しむよう、施設の夜間開放等に取り組めます。例えばバレーボールのコート、卓球台をセ

ットするというような、利用者が自由に来て利用できるような開放事業等を工夫して取り組むというように予定でございます。

2つ目に行きまして、「地域スポーツの推進事業」、ここでは住民の身近なスポーツをする場の提供ということで、総合型地域スポーツクラブの育成を図っております。これは、岩手県体育協会に業務を委託して、その中にあります、いわて広域スポーツセンターと連携し、県内58クラブへの訪問、アドバイス等を行っているところでございます。現時点での訪問クラブ数はまだ44クラブでございますが、3月までにはこれを全てのクラブのほうに回るような形で進めていきたいと考えております。来年度以降につきましても、その地域の住民などが身近でスポーツを楽しむ環境を、より整備するために、総合型地域スポーツクラブの育成に力を入れていきたいと考えております。

3つ目の「スポーツ振興戦略推進事業」、ここはトップ・プロスポーツチームとの連携というところでございます。本県にはいわてグルージャ盛岡、岩手ビッグブルズ、釜石シーウェイブスの3チームの、トップ・プロスポーツチームがあり、この3チームと連携して試合への観戦招待や、スポーツ教室の実施などを行っております。それぞれ記載のとおりに参加実績となっております。来年度以降につきましても、引き続きこのトップ・プロスポーツチームと連携して子どもと選手が触れ合うようなスポーツ教室の開催等に取り組んでいきたいと思っておりますし、トップ・プロチームの持つ情報発信力というものを活用しながら、アウェイゲームでの本県の観光情報の発信など、本県PRにも取り組んでいきたいと思っております。

4つ目の「超人スポーツプロジェクト」については、岩手大学と連携しながら、新しい競技の考案のためのワークショップ等を開催しているところでございます。ワークショップやそのPR、普及のためのオープンセミナーの参加実績は御覧のとおりでございます。来年度も引き続きこの新たな超人スポーツの考案、開発に取り組んでいくこととしております。

最後の「スポーツ医・科学サポート事業（健康づくり支援事業）」については、県民の方々の健康づくりを医・科学的な知見を生かしてサポートするという取組で、今年度は12月末時点で53回実施して約6,300人程の方が参加しているところでございます。県民のニーズも高まっておりますので、来年度も継続して取り組んでいくこととしております。

### **（清川保健体育課総括課長）**

続けて3ページから御説明申し上げます。

「② 子どものスポーツ機会の充実」でございます。幼児から高校生の体力向上、健康の保持・増進を狙った事業を考えて記載してございます。主に「ア 学校体育の充実」ということになりますが、3つの視点でそれぞれ取り組んでおります。

1番は事業改善、次に事業以外の取組、特別活動を含めた取組、そして家庭・地域との連携といったところ、3つの視点をもってそれぞれの事業を充実させていきたいと考えております。

1つ目の「希望郷いわて元気・体力アップ60運動」ですが、体力向上を目指して、1日60分以上運動（遊び）やスポーツに取り組みましようという事業でございます。平成27年度から進めておるものでございますが、運動が好きな児童生徒を増やすということを目的に、

引き続き運動習慣の形成といったところに力を入れて取り組んで参りたいと思います。

3つ目の「幼児の60運動遊びプロジェクト」、それから次の「幼児児童の運動遊び研修会」については、小学校から実際に取り組む60運動の効果的な推進を狙いまして、児童・生徒の体力向上、健康増進には、幼児期からの運動や遊びが重要ですので、今年度実施した幼稚園教諭、小学校教諭等の指導者の研修会や、保護者のセミナー等について来年度も更に充実して進めて参りたいと考えております。

次の「特別支援学校体育指導者研修会」、それから「小中学校体育実技研修会」、次のページになりますが、「高等学校保健体育指導者研修会」、それから、武道関係の支援事業といった研修会の事業を挙げてございますが、これらの事業は全て指導者の授業力・指導力等、指導者の資質向上を目指しており、それが学校体育の充実に繋がるものと考えておりますので、更に進めて参りたいということで考えております。

4ページが一番下、「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」について、スポーツの意義や価値を学ぶオリンピック・パラリンピック教育の推進を図っていきます。今年度は16校を推進校としてオリンピック・パラリンピアンを各学校へ派遣し、その意義や価値を学ぶ取組を進めて参りました。来年度も同様に事業を実施いたしまして、オリンピック・パラリンピック教育の推進を図って参りたいと思います。

続いて、5ページをお願いします。もう一つの柱、「イ 運動部活動の充実」についてでございます。

1つ目の「「岩手県における部活動の在り方に関する方針」の改定」ということで、国の運動部ガイドライン、文化部ガイドラインを踏まえた県の方針を昨年改定し、周知したところです。それに従い、各市町村、各学校では独自の方針を設定していただき、その方針に基づいて適切な運動部活動を進めていただいているところであります。来年度は、引き続きその取組の徹底を図るとともに、関係者が共通理解の下しつかりとした活動が進められるようにというところで考えております。特に太字で掲載しておりますが、先ほどもお話いたしました、来年度から関係団体や有識者で構成する研究会を設置いたしまして、特に中学生の活動の在り方について、どのような在り方が望ましいか、生徒本意の有意義な活動を進めるためにはどういったものが考えられるかといった辺りを検討していきたいと考えているところです。

次の、「部活動指導員配置事業」でございます。ここで大変恐縮ですが、記載事項について誤りがございますので、訂正をお願いしたいと思います。内容のところの下、【参加者等】でございます。高校45人、中学校「73」人とございますが、高校は記載のとおりで、中学校を「65」人に訂正をお願いいたします。大変申し訳ありません。65人を配置したということでございます。内訳はそのまま、市町村立の中学校64人、県立中学校1人ということでございます。先ほども触れましたが、運動部活動、文化部活動について、教員の指導にかかる時間を軽減し、教員の負担軽減を狙っているものと、部活動の質的な向上を図るためということで、部活動指導員の配置を進めて参ります。今後は活用事例の周知、成功事例の周知等行いながら、さらに配置を拡大させていきたいと考えております。

以上で説明を終わります。

**(星野主幹兼生涯スポーツ担当課長)**

次の6ページを御覧ください。

ここでは「ウ 地域における子どものスポーツ機会の充実」ということで、「生涯スポーツ振興事業」でございます。再掲でございますが、事業団には様々なメニューの事業を委託しておりまして、子供のくくりでいいますとスポーツ教室、先程も若干説明したが、特に武道教室が8教室実施されました。これを引き続き充実を図っていくということや、県営スケート場オープニング無料開放デーというようなイベントに取り組んでいくというようなことになっております。

2つ目の「地域スポーツ推進事業」、ここは先程御説明しました、総合型スポーツクラブの育成についてです。この事業の中で令和2年度以降の取組の方向で、ゴシックで記載しておりますが、県教育委員会と連携し、地域スポーツクラブの他県の先進事例の調査をはじめ、県内の総合型クラブにおいて受入態勢の整備に向けた現状や課題等の調査を来年度県から行う予定となっており、新規に予算を取っているところでございます。

3つ目の「スポーツ振興戦略推進費」は、トップ・プロスポーツチームの連携ということで、スポーツ教室は子供たちを中心としたスポーツ教室でもありますので、ここに再掲をさせていただいたところでございます。説明は省略させていただきます。

続きまして、7ページでございます。

「③ 成人のスポーツ機会の充実」ということで、「生涯スポーツ振興事業」につきましては、岩手県スポーツ振興事業団に業務を委託しまして、働く世代が様々なスポーツイベント、あるいはスポーツ活動ができるように工夫し、先程御説明したように、仕事の後に同僚や親子でスポーツを楽しめるよう、施設の夜間開放などのような工夫をしていきたいと考えております。

また、「地域スポーツ推進事業」の総合型地域スポーツクラブにおいても、プログラム等の充実、そして親子で参加しやすいような環境づくりなど、工夫をしていきたいと思っております。

3つ目の「高齢者スポーツ活動振興事業」、これは公益財団法人いきいき岩手支援財団と連携して実施しております。内容としては、岩手県民長寿体育祭（いわてねんりんピック）の県内開催や、全国健康福祉祭（ねんりんピック）への本県選手団の派遣というようなことに取り組んでいるところです。実績としましては、記載のとおり参加人数となっております。来年度につきましても、いきいき岩手支援財団と連携しながら、これらの事業に取り組んでいきたいと思っております。ちなみに、来年度の全国健康福祉祭（ねんりんピック）は岐阜開催ということになっておりますので、そちらへの派遣の準備を進めて参ります。

続きまして、8ページでございます。

ここは、「④ スポーツに関わる多様な人材の確保」ということで、「生涯スポーツ振興事業」の中では、岩手県スポーツ振興事業団において、高齢者健康・体力づくりセミナーや、指導者講習会の開催等を実施していただいております。引き続き委託事業でこれらの指導者養成を図っていくところです。

また、「地域スポーツ推進事業」、県体育協会に委託しているものの中では、岩手県生涯スポーツ指導者講習会というような講習会を開催し、そのクラブマネージャーや指導者の方々の資質向上等に取り組んでいるところです。引き続きこれも取り組んで参りたいと考

えております。

3つ目の「スポーツ振興戦略推進事業」のトップ・プロスポーツチームとの連携においては、3チームの公式戦等において、スポーツボランティアの養成のための講習会等に取り組んでいただいております。まだシーズン中のチームもございますが、現時点で3チーム合計844人の参加となっております。

4つ目、「スポーツ推進プラットフォーム構築事業」でございます。これは、県内のスポーツ関連団体や企業、大学等の官民連携体制を構築して、本県スポーツの振興の核となる組織を少しずつ立ち上げて、取組を進めていこうというものでございます。今年度はスポーツ関係団体、産業界、大学等の方々から成る研究会の開催や、他県の調査等も実施し、プラットフォームに求められる機能や体制の検討を行ってきたところでございます。来年度中の、いわてスポーツ推進プラットフォーム設立に向けて、更に研究を深めて参りたいと考えております。

最後、「スポーツ功労者表彰事業」ですが、3月に岩手県文化スポーツ表彰、知事表彰を行う予定で、現時点では候補者は11人を想定しているところでございます。来年度もこの表彰に加えて、今後計画にも盛り込んでおりますが、長年従業員のスポーツ活動の推進に積極的な取組を行ってアスリートの競技活動をはじめ地域スポーツの活動を支えている企業を表彰するような仕組みも検討して参りたいと考えております。

9ページでございます。

ここは「⑤ スポーツを楽しむ環境の整備」ということで、施設関係でございます。

「スポーツ施設管理運営事業」ということで、当課では県営スポーツ施設について県営体育館、県営野球場等の9カ所のスポーツ施設を維持管理しております。指定管理者と連携しながら、適切な施設の維持管理に取り組んで参ります。

「スポーツ施設整備事業」につきまして、老朽化が進んでいる施設がございます。そこを安全性を第一に機能の向上、利便性、快適性の向上に配慮した施設改修を計画的に行っていきたいと考えておりますし、令和2年度には、岩手県公共施設等総合管理計画に基づいて個別施設計画をそれぞれ策定する予定となっております。

「新野球場整備事業」でございますが、昨年12月に公表させていただきましたが、清水建設グループが事業者となりまして、今その建設に向けて準備を進めているところでございます。今後の計画としては、来年度詳細な設計を行い、令和3年度から令和4年度にかけて建設工事、そして令和5年度の供用開始を目指して盛岡市と共同で整備を進めて参ります。

続きまして、10を御覧ください。

「2 共生社会型スポーツの推進」について御説明いたします。

また1枚おめくりいただきまして、11ページを御覧ください。

ここでは、「① 障がい者スポーツの推進」ということで、「障がい者スポーツ振興事業」では、障がいのある方が身近な地域で日常的にスポーツを楽しむことができるよう、その参画機会の充実を図るために岩手県障がい者スポーツ協会に委託しまして、スポーツ教室、障がい者スポーツ指導員の育成など、様々な事業を展開しているところでございます。主な事業への参加者の状況は、岩手県障がい者スポーツ大会の1,517人で御覧の記載のとおりでございます。

令和2年度以降の方向といたしましては、引き続き県障がい者スポーツ協会と連携して、様々な事業を展開していくことと、一部新規ということで、障がい者スポーツ指導員の育成を現在は盛岡地区のみで行っているのですが、それを新たに沿岸地区でも開催する予定としております。

2つ目の「スポーツを通じた共生社会づくり」は、障がいのある人もない人も共にスポーツを楽しめる環境づくりを推進するという事で、内容としましては、障がい者スポーツ体験会や出前授業、あるいは障がいのある人もない人も共に楽しむ教室等の開催等を行っております。具体的には、卓球バレー交流大会等を行っております。これは障がいのある人もない人も共に一緒に楽しめるような種目でございます、人気の高いものでございます。来年度以降のところでございますが、来年度は障がいのある方々がスポーツを習慣化していくために、やはり子どもの頃からスポーツに取り組む環境を整えていかなければならないと考えております。障がいをもつ方の御家族の方や、特別支援学校の方々からお話を聞きますと、障がい者スポーツ用具が高価でなかなか手が出せないというところがあるということです。やはり子どもの頃からスポーツに親しむとなると、車椅子であってもスポーツ用の子ども用車椅子等の整備をしていく必要があるということで、来年度はこれを県障がい者スポーツ協会の事務所がある、ふれあいランド岩手に整備し、整備した用具を活用したスポーツ教室開催や、学校等への貸出しを行う予定でございます。

また、2つ目に、障がいのある人もない人も共にプレーできる卓球バレー交流大会とありますが、現在盛岡でのみ実施しているものを、沿岸地区でも開催するような形で取組の拡大をしていこうというものでございます。

「② 高齢者のスポーツの推進」も共生社会の中にも掲げております。

ここは、先程御説明したものを再掲しておりますので、説明を省略させていただきます。12ページでございます。

「③ スポーツにおける女性の活躍推進」ということで、これも生涯スポーツ振興事業で、スポーツ振興事業団に委託して女性の方々が参加しやすいような環境づくりに取り組んでいるところでございます。その整備に向けたアンケート調査等を行いながら、親子で楽しめるスポーツ教室など、女性のニーズに合ったようなスポーツ教室の開催等、工夫して進めて参りたいと思っております。

地域スポーツ推進事業においても、総合型クラブの中で女性が参加しやすいようなプログラム開発、提供について、取り組んでいきたいと考えております。

スポーツ医・科学サポート事業でも、女性の健康づくりのプログラムづくりもこの事業の中で展開していこうということで、再掲として掲げさせていただいているところであります。

### **(横坂競技スポーツ担当課長)**

続きまして、13ページをお開きください。

「3 国際的に活躍する競技スポーツの推進」について御説明いたします。

14ページからの事業の詳細を説明する前に、全体像を把握していただくため、別にお配りしておりますA3カラー片面刷りの「岩手県における競技力向上事業の概要（令和2年度案）」の資料をお開きになってください。一度こちらで競技力向上に係る事業の全体像

を頭に入れていただいて、それぞれの細事業の説明をさせていただきます。

この資料の右上のところに「当初予算額228,442千円」と記載されています。これにつきましては、当初予算案としまして議会に提案している事業のうち、強化事業に係るものの総額を記載しております。

この表は、J S C（独立行政法人日本スポーツ振興センター）で提唱している「日本版 F T E M」フレームワークといったものを基にして作成をしたものです。右端に「中央競技団体からの支援」と大きな筒の状態のところで記載しており、ここに向けて県として、どういったことを行っていくのかといったものを表したものになります。左の真ん中のところに、破線の囲みで県民計画の具体的推進方策③、④、⑤、⑥と記載しています。「③ アスリートの競技力の向上」に係るもの、「④ 障がい者のアスリートの競技力向上」に係るもの、そして「⑤ スポーツ医・科学を通じた競技力向上」、そして何よりも「⑥ スポーツ活動を支える指導者等の養成」、こういったところが競技力を上げていく上で必要な要素とし、これらに関係した事業の組立てとなっております。

斜めにT1、T2、T3、T4、E1と記載していますが、この下のところにある六角形のもの、これは石垣をイメージしております。競技力を向上させる上で土台となるもの、欠くべからざるもの、そして今力を入れる事業といったところで、それぞれ【③ アスリート】のもの、【④ 障がい者】に関するもの、【⑤ 医・科学】に関するもの、そして【⑥ 指導者】に関するものと分類しています。【③ アスリート】のアスリートの雇用支援等に関する環境の整備等を土台として、上の丸で表現している、それぞれの年代に合わせてスポット的に強化する内容や、内容を加味して強化を進めていくというような事業の作りになっております。この辺を少し頭に入れていただきながら、再度資料No. 2の岩手県スポーツ推進計画に戻っていただければと思います。

資料No. 2の14ページをお開きください。

「① アスリートの発掘・育成」ということで、次世代アスリートの発掘・育成の事業についての説明をさせていただきます。

オリンピック選手等育成・強化事業（いわてスーパーキッズ発掘・育成事業）です。本日、委員として参加いただいております上濱委員には、このスーパーキッズ発掘・育成事業のプロジェクトチームの委員長として、様々な御指導、御助言をいただきながら事業を進めております。皆様御存じのとおり、昨年スキージャンプで活躍した小林陵侑選手がスーパーキッズの1期生ということで、現在注目もされております。令和2年度以降につきましては、事業の改善ということで、今年度、今まで小学校4年生のみで選考していたものに小学校6年生の選考を加えまして、アンダー15、いわゆる中学校からのプログラムも新規に設定し、強化を図っているというところでございます。小林陵侑選手以外にもスキージャンプ、それからノルディックコンバインド、ボート等、ジュニアの大会で活躍する選手が多く出ているところでございます。

次に、オリンピック等メダリスト育成・強化事業（メダリスト育成支援）につきましては、各年代の選手でもトップクラスにいる選手に対して、経済的な負担を緩和するために支援をするということで行っているものです。今年度は、スポーツクライミングの伊藤ふたば選手、また、岩淵麗楽選手が、先のワールドカップのビッグエア総合優勝を果たしております。それからスキージャンプの小林龍尚選手、この方は、小林陵侑選手の弟さんに

なります。この3名を指定しまして、支援をしているところでございます。

3つ目の岩手スポーツアカデミー事業については、本県におきまして、オリンピック選手等の育成実績のある競技団体5団体、具体的には陸上、ホッケー、スキージャンプ、クライミング、スピードスケートに対して、活動の支援を行っている事業でございます。

4つ目のいわて競技力向上事業（Jrトップ選手支援事業）につきましては、JOCのジュニアオリンピックカップ等に出場する選手の支援ということで行っておりましたが、令和2年度からについては、後で詳しく説明させていただく、オリンピック選手と育成強化事業のポテンシャルアスリート支援といったものに組替えをして支援をしていく、ということを考えております。

14ページの最後のところは、障がい者スポーツ選手発掘・育成事業ということで、医・科学的な研修会や、選手等の発掘のための研修会を開催したり、体力測定等を行っているものでございます。

15ページをお開きください。

ここでは、国内外で活躍するアスリートの育成ということで、令和2年度以降のところ、特に新規でやるものについてピックアップして説明をさせていただきます。

上から3つ目、オリンピック選手等育成・強化事業（トップアスリート活動支援）のところ、先ほど説明をいたしましたトップアスリートの活動支援につきましては、日本代表、それから中央競技団体の強化指定選手に対して、活動の支援をしているものですが、令和2年度からは、これにプラスして、ポテンシャルアスリートということで、国内大会で入賞レベル、もう少しで日本代表になれるといった選手への支援を新規で記載しております。

その2つ下、パラアスリート拡張支援事業（デュアル・アスリートプロジェクト事業）について説明をさせていただきます。これは、障がい者アスリート発掘・育成を推進するために複数の競技種目の体験機会を創出し、競技選択や活動機会の拡充を図るというものです。具体的に言いますと、例えば車椅子の陸上競技をやっている選手が冬季スポーツにもチャレンジをして、冬季スポーツでも大きな大会に挑むといったものになります。実際に、現在車椅子の短距離の選手がクロスカントリーのスキーであるシットスキーに参加して中央協議団体の育成選手として登録されているという例もございます。

16ページをお開きください。

このページでは、一番上のいわて競技力向上事業（アスリート県内雇用支援事業）について説明をさせていただきます。これは、県内企業と連携し、県内のアスリートが競技生活をできる環境を整えるということで、アスリートの地域に根差したスポーツ活動による県内競技力の向上を図ることも併せて行うものでございます。スポーツ選手を県内企業が採用するための開拓事業や、企業説明会等を開催し、選手と企業のマッチングを行っていくものです。実際に、現在、本県で活躍している選手、例えばスケートの曾我こなみ選手のように、競技団体と企業とのマッチングによって本県で活躍している選手という例もございますので、そういったところを参考にしながら、事業を進めて参りたいと考えております。

17ページをお開きください。

「② 競技力向上を支える人材の育成」ということで、こちらには指導者に係るものや、



指導者の資質向上に係るものについて4事業を挙げております。これも、今までいわて国体以降継続して実施しておりまして、成果を上げている事業です。

次に、18ページをお開きください。

18ページの一番上、障がい者スポーツの振興事業（障がい者スポーツ指導員育成事業）ということで、これは初級障がい者スポーツ指導員の養成講習会や、中級障がい者スポーツ指導員養成講習会について、今年度も実施しているものですが、令和2年度から新たに初級障がい者スポーツ指導員養成講習会を沿岸地区で開催し、開催回数を拡大していくというものになっております。

次に、同じページの、アスリートのサポート人材の育成の部分でございます。1つ目、トレーナースタッフ派遣事業ということで、障がい者の支援ということでジャパンパラ競技大会等に対し、（公財）日本障がい者スポーツ協会公認のスポーツトレーナー等を派遣し、障がい者アスリートの支援をするものでございます。

その下、IAT第3期生養成事業についてです。この事業は、もう今年度からスタートしている事業です。当初15名程度を予定して募集をしたわけですが、現在、女性14名を含む60名の応募があり、主に理学療法士、作業療法士、柔道整復師等の医療系の資格を持った方々が研修を行っております。令和4年3月31日まで講習を受け、令和4年度から実際に選手のサポート等を行っていくものです。もちろん選手のサポートのみではなく、研修で獲得した知識や技術を使い、健康づくりや体力向上、県民の健康づくり等にも活躍していただくとということで、現在も養成を進めているところでございます。

その下でございます。パラアスリート拡張支援事業ということで、パラアスリートコーディネーター配置事業を令和2年度から実施いたします。こちらは、パラアスリートのスポーツ環境の整備ということで、例えば所属先や、リハビリ関係の医療施設等を訪問し、そこで様々な情報提供や、障がい者アスリートの発掘を行うものでございます。

続きまして、19ページをお開きください。

「③ 競技力向上を支える環境の整備」で、スポーツ医・科学、情報を活用した支援ということで、アスリートの体力向上支援事業の中で、令和2年度、新たにスポーツ現場の先進的取組に関わる競技団体と連携した会議を実施するなど、戦略的・積極的にデータの活用を推進していこうと考えております。

1つ飛びまして、3つ目、競技力向上支援事業の中では、最新の競技用具を整備することで本県の競技力の向上を図ろうということで、セーリング・自転車・カヌー・ボート等の競技用具を整備していくことを、一部新規事業として行うものでございます。

その下、パラアスリート拡張支援事業のパラスポーツギア購入事業、これにつきましても同様に障がい者の競技力向上、活動の活性化を目標として、競技用の車椅子やシットスキー等を購入し、選手を支援していくというものでございます。

以上、競技力向上に係る事業説明を終わらせていただきます。

#### **（高松連携調整課長）**

続きまして、「4 地域を活性化させるスポーツの推進」について説明させていただきます。20ページを御覧ください。

ここには指標を載せております。指標をまず、スポーツ大会・合宿・イベントの参加者

数といたしまして、現状実績値、2017年の13万人から2019年の16万6千人、そして2023年には目標値74万人という参加者数を掲げており、これから地域の活力、経済の活性化、スポーツの推進というのも念頭に取り組みたいと考えております。

それでは、細かな事業につきましては、21ページから説明をさせていただきますので、21ページを御覧ください。

「① 地域の活力につながるスポーツの推進」のうち、復興五輪関係（復興五輪ムーブメント推進事業）というものがございますが、これについて説明をさせていただきます。ここでは本年度の未実施事業、所謂これからの事業と、来年度の事業を中心に説明をさせていただきます。

1つ目の「復興の火」展示についてです。東京2020オリンピックの聖火がギリシャで採火され、3月20日に宮城県の松島基地に降り立ちます。その火が「復興の火」として被災3県（岩手県、宮城県、福島県）で展示されるイベントでございます。3月20日、21日の2日間は宮城県で展示され、その翌日22日、23日が岩手県、そして24日、25日が福島県で展示され、26日には、いよいよ福島県のJヴィレッジから聖火リレーがスタートするという流れになっております。岩手県での展示は22日が三陸鉄道、JRのSL銀河を活用いたしまして、列車に「復興の火」を乗せて宮古駅を出発し、途中で幾つかの駅でお披露目セレモニーを行いながら釜石市、そして花巻市まで展示輸送して参ります。翌23日には大船渡市の「おおふなぼーと」で展示しますので、お近くの展示会場に足を運んでいただきますと幸いです。

なお、詳細につきましては東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会や、県のホームページで公表しておりますので、御確認方よろしくお願いたします。

次に、2つ目のオリンピック聖火リレーについてです。先程御説明しましたとおり、聖火は3月26日に福島県をスタートいたします。岩手県では6月17日から19日の3日間県内を回ります。リレーが行われる日には、それぞれその日の最初の聖火ランナーの出発時に実施する出発式、市町村の切り替わりや区間移動に実施するミニセレブレーション、そしてその日の聖火到着を祝うセレブレーションというように、いくつかのセレモニーが行われます。現時点におきましては、セレブレーション関係情報のみが公表されておまして、6月17日が久慈市の久慈市文化会館アンバーホール、18日が陸前高田市のアバッセたかた、そして19日が盛岡市の盛岡八幡宮での開催となっております。その他の出発式とミニセレブレーションにつきましては、今後情報を公表していくこととなりますので、また是非お近くでイベントが開催される際には、お立ち寄りいただければ幸いです。

次に、3つ目のパラリンピック聖火フェスティバルについて御説明いたします。パラリンピックの聖火につきましては、希望郷いわて国体の炬火を作った時と同じ方法で作られます。県内33市町村が独自に採火いたしまして、その火を一つにまとめて東京への出立式に繋いでいくという行事でございます。時期といたしましては、ちょうどお盆の時期に当たりますが、各市町村でのイベントが8月13日から16日にかけて行われ、8月17日には盛岡市の前潟イオンモールの屋外駐車場で集火式、それから東京に向けての出立式を行う予定でございます。こちらにも皆様足を運んでいただきまして、盛り上げていただければと思っております。

続きまして、4つ目のホストタウン、事前キャンプ誘致についてです。ホストタウン関

係の登録状況は、先ほど御説明したとおりでございますが、事前キャンプについてここで御報告させていただきます。現時点では、6市町で覚書の締結がなされております。具体的には、まずオリンピック関係で申しますと、花巻市が日本代表のボート、それから盛岡市がカナダ代表の女子水球と7人制ラグビー、マリ代表の柔道、そして八幡平市がルワンダ代表の陸上、自転車、ビーチバレー、そして紫波町がカナダ代表の男子バレーボール、岩手町がアイルランド代表の女子ホッケーとなっております。パラリンピック関係では、遠野市がブラジル視聴覚障がい者5人制サッカー代表となっております。本県で唯一、共生社会ホストタウンに登録されている遠野市でございますが、今週の日曜日、16日に遠野市役所とショッピングセンターとびあを会場といたしまして、「共生社会フォーラム in とおの」という行事を催す予定と聞いております。そのフォーラムでは、共生社会の実現を目指すための特別講演や、ブラインドサッカー体験なども行われるようですので、興味のある方は是非足を運んでみてはいかがでしょうか。

東京2020大会終了後には、復興五輪フォーラムといたしまして、ホストタウンで行われた交流事業の成果展示、基調講演、東京2020大会に出場した本県ゆかりの選手と県民との交流会なども実施する予定でございます。

次の5つ目、6つ目につきましては、機運醸成関係の事業です。一人でも多くの県民に参画していただくため、機運醸成を図っていくこととしており、各市町村イベントへのオリンピック、パラリンピアン等の派遣や、経済産業省と復興庁が連携して、海外メディアに対して被災地を案内するツアー企画が検討されております。また、その他、東京都と東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が連携いたしまして、東京2020大会中、県内2カ所でライブサイトも計画されているところでございます。

最後に、ページをめくっていただきまして、22ページを御覧ください。

7つ目の「ラグビー県いわた推進事業」についてです。ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>では日本中、そして県内も大変盛り上がったところでございます。釜石開催は1試合だけでしたが、新たな絆が生まれまして、今もその熱が冷めない状態が続いていると思います。ラグビーワールドカップの報告は、この後の報告で詳しく説明させていただきますが、ラグビーワールドカップで生まれまして、そして希望郷いわて国体・希望郷いわて大会から引き継いできたレガシーを将来に繋いでいくため、来年度にはメモリアルイベント事業や、県ラグビーフットボール協会等と連携して、ラグビーファン拡大に向けての取組を実施して参ります。メモリアルイベントでは、内容はまだ決定はしておりませんが、ラグビーの試合や、選手と県民との交流や体験など、みんなで楽しみ盛り上がるができる企画にしていきたいと考えておりまして、これからしっかりと組み立てて大会1周年を迎えられるよう取り組んで参ります。

また、この機を逃さずラグビーファンの裾野拡大につながる取組を、専門知識を有する県ラグビーフットボール協会などと連携しながら事業展開して参ります。

さらに、これまでの繋がりを有効に活用し、ニュージーランドの高校生や他県の高校生とのラグビー交流、そして異文化交流も深めていく事業を計画しているところでございます。

以上で説明を終わります。

### **(星野主幹兼生涯スポーツ担当課長)**

最後に、私のほうからスポーツコミッション関係として、23ページ、24ページのところを御説明したいと思いますが、時間の関係もありますので、新規の部分のみ御説明をしたいと思います。クライミング関係を説明したいと思います。お手数ですが、お手元の本日お配りしましたA3判のスポーツクライミング施設が載った資料を御覧ください。こちらで御説明をしたいと思います。

右下のところに絵がございいますが、現在、新屋内外ボルダリング施設を建設中でございます。建設の場所は、左側の写真にありますリード・スピード施設に向かって左側のところに建設中でございます。これができることによって、スピード・ボルダリング・リードの3種類の施設が整って、その中央のところでお客様が3競技を見られるような配置となります。ここで第3回スポーツクライミングコンバインドジャパンカップを開催することになっており、大会概要は左上のとおり、5月16日、17日でございます。競技種目はスピード・ボルダリング・リードの3種目。国内トップクラスの選手が男女各20名、計40名の参加を見込んでおります。本県の活躍している伊藤 ふたば選手も参加していただける予定と聞いております。来場者数は2,000人程を予定しております。この新しい施設のこけら落としの大会として、来年度のスポーツクライミングの拠点づくりの勢いをつけていきたいと考えております。

長くなりましたが、以上で説明を終わりたいと思います。

### **(平藤会長)**

ありがとうございました。随分ボリュームのある説明でしたが、訂正もありましたけれども、繰り返しませんので、よろしくお願ひします。

御質問、ございますでしょうか。

### **(中嶋委員)**

宜しいでしょうか。

冒頭で菊池部長、それから平藤会長の御挨拶にもあったとおり、岩手県出身のアスリートが大変活躍しておりまして、私も先週奈良県に行った時に「岩手県から来ました」と言うのと「ああ、大谷君ですね」と言われる状況で、大変嬉しく思っております。やはり、今日の報告を聞いて、ますますこれからこのように有名なアスリートの方々が出てくる方向で考えられているなというのがよく分かりました。ぜひ活動を進めていただければと思います。

1つ私気になっているのは、学校の部活動です。部活動指導員の配置をして2年目になりますが、文部科学省ではあと3年程でやめ、後は各地域に活動をお願いするというような方針が出ています。せつかくうまくいったところで補助を切って、またゼロベースでの活動となったらどうするのかなということや、今の働き方改革で、スポーツの経験のない顧問の先生方を支援するなど、様々な部活動で抱えている問題やそのための支援が必要です。まだ部活動指導を地域に後をお願いすると言っても、やはり岩手県では地域が受け皿となるということは非常に難しいのではないかなと考えています。そこで、文部科学省の考え方ではなく、やはり岩手県として部活動をどう支えていくかというあたりについて気

になっております。今日の報告で、新規に部活動の検討委員会を立ち上げる、検討するという報告がありましたので、この検討に期待をしていたなと思いますので、是非よろしくお願いいたします。

**(平藤会長)**

ありがとうございます。

今の御意見に関連して、部活動関係など、御意見は何かありますか。

私が少し気になっていたのは、その部活動指導員の関係なのですが、この間新聞を見たら全国中学校スキー大会で岩手県から、お二人が監督として参加なさっているのですが、このようなケースというのは今までありましたか。

**(二階堂委員)**

昨年度も2人参加しました。

**(平藤会長)**

その他の競技は参加実績などはあるのでしょうか。

**(二階堂委員)**

あとは、県内の大会ですとありますが、全国大会では昨年と今年の全日本中学校スキー大会でお二人のみとなります。

**(平藤会長)**

高校ではまだないという事でよろしいでしょうか。

この話に関連しますが、様々な研究会で研究なさると思うのですが、学校外に出たい子どもの体制整備というのはとても大切なのですが、学校に残って部活をやりたい生徒もたくさんいるので、そこについてはどうしていくのがよいのか、それも大切かと思っておりますので、両方とも進めていただければと思います。よろしく申し上げます。

他に御意見はありますか。

**(長屋委員)**

総合型スポーツクラブのフォルダの長屋です。よろしく申し上げます。

総合型クラブという視点からのお話を少しさせていただきたいと思いますが、3ページの「② 子どものスポーツ機会の充実」で、講習会などをしていただいております。これは、例えば上から3つ目、幼児の部分が大事だということで取り組んでいらっしゃいますが、この公立幼稚園3園を対象というのは、少ないのではないかなと思っております。その3園しか取組が生かされないとなると、県全域での取組ということにはならないと思いますので、この取組を様々な箇所で行っていただきたいということと、総合型クラブでも若年層から高齢者までを対象として活動を行っているので、その若年層のプログラムをすに当たって、園の先生だけではなく、総合型クラブと併せて、一緒に取り組めたらいい

のではないかなと思います。そうしていくと、園でも取り組み、そして地域の総合型クラブでも、では週1回スポーツ教室をしましょうということで、園で教室を受けられない子どももその地域では受けられる形にできるのではないかなと思います。このように、うまく園と地域が関連して取組を実施し、更に広げていけたら良いのかなという意見が1点です。

また、もう1点ですが、総合型クラブのところ、例えば6ページなどにもありますが、多様な遊びや運動の機会を提供するというので、現状、私は全部の総合型クラブについて把握しているわけではないのですが、やはり競技、スポーツ種目の展開が非常に多いのかなと思っています。「多様な」という記載がありますので、総合クラブの中でも今得意としている種目や活動はそのまま残していただいた上で、先程の幼児体育の部分の講習を受けて、更にスポーツを噛み砕いて、運動、遊び的に器具を使うことなど、そういった形で更にプログラム数を増やして欲しいかなと思っています。スポーツとなると、そのスポーツを指導できる人のみが、限られた地域でしか受けられない形となるので、もう少し噛み砕いた運動と結びつける取組を行う必要があるかなと思います。

後は私たちフォルダでは多種目という形で、年間通して、普段できないような競技など、例えばテニスやバスケットボールも幼児のうちから経験させたり、野球も、今地域で遊ぶお子さんがいないので、幼児や小学生に対して、2カ月かけて野球のルールから始まって、どういうふうにバットを振ればいいのかということをお教えしたり、後はホッケーの道具をお借りして、どうやって使うのかという形で、スポーツを楽しむためのプログラムを行っており、すごく好評です。そのため、次年度も取組もうかなと考えていますので、そのような形から、では私この競技したいというように、まず末端の部分の選択性と、スーパーキッズ卒業生の小林 陵侑選手も、様々な運動をしてきたはずですので、陵侑選手のように、まずは運動の土台づくりを、その他の総合型クラブの中でもやっていただけると、幼稚園や学校に行ったときでも子ども達がスポーツを楽しんでいると認識し、学校の授業でさらに専門的な授業を受けるということもできるのかなと思っています。

ここについて、恐らく今後も課題になるのは、指導者不足です。これは何か取組をされていますかという質問が1点です。分かる範囲で教えていただきたいです。

### **(星野主幹兼生涯スポーツ担当課長)**

やはり総合型クラブにおいて、様々な種目を教えていただけるような指導者が不足しているという課題認識はございます。広域スポーツセンターのアドバイザーの方も巡回しながら、そのような現場の声も拾ってきております。

また、運営面でもマネジメントする人材が大切でして、マネジメント人材や指導者の養成事業を岩手県、岩手広域スポーツセンターと連携して取り組んでおります。しかし、蓋を開けてみますと、県としてたくさん呼びかけてはいるのですが、なかなか参加する指導者が少ないというのが現状で、もっともっと工夫をしていかなければならないかなという認識です。

今御意見いただきました幼稚園の先生と総合型クラブでの取組を一緒にやるというのも、指導者を育てていくような手法の一つだなと感じましたし、そういう幼稚園、学校との連携ということも、他県でうまくやっている例など、研究していきたいと考えております。

**(長屋委員)**

ありがとうございます。

良いかどうかは別としてですが、例えば県内でも1つのスポーツを長年やってきた方はたくさんいると思います。そのため、例えばスポーツ人材指導者バンクのようなもので、できる日とできない日や、この曜日の毎月の活動は無理だけれども、イベントのこの日はお手伝いに行けますというような取組の形もいいのではないかと思います。例えば6月の第2日曜日のときに2人程、人材バンクの方が地域に来れる時は、その地域でイベントを組んで、普段できない教室を地域の人や幼児とやることや、親子体操やるというような形で、お母さんも一緒に巻き込んだ形のイベントをするなどです。一番いいのは週1回などの定期開催なのですが、その人材バンクの中で、できる範囲で上手くコーディネートしながら、期間限定のイベントなど、とにかくスポーツや運動に触れる回数を多くする工夫をされてみてもいいのかなと1つ提案です。

**(平藤会長)**

現在、スポーツプラットフォームというのが動き始めていまして、まさに今のお話にぴったり来るのかなということで、この御意見を検討の中で進めていくのがいいのではないかと思います。

他に御意見などはありませんか。

**(菊池委員)**

先ほどの部活動指導員のお話で、高校のほうですが、夏季インターハイでは1名、卓球競技で指導者として参加していただいております。修正願います。

**(平藤会長)**

それでは修正をお願いします。

総合型クラブの件について他に御意見はありますか。または、幼児の体を使った遊びなど、そのような部分でも御意見など、他の委員の方から御意見はありますか。

私から1つ質問です。勤労者のスポーツ実施率のところで、岩手県スポーツ推進計画では取組の方向性として健康経営と結びつけてというようなことがあります。ただ、今のお話を聞くと今年は何も実施していないように見えます。来年から、健康経営をなさっている企業等について検証して、その動きを誘導していきたいというお考えが述べられたのですが、実状はどうなのでしょう。実際その会社、企業として健康経営に上手く取り組んでいるのかというのは、小山田委員から何か情報ありますか。

**(小山田委員)**

私の会社である株式会社小山田工業所ではまだ取り組むことができていませんが、岩手県商工会議所連合会では県内の中小企業における健康経営を支援・普及させる取組を行っております。

**(平藤会長)**

ありがとうございます。

国としてはスポーツエールカンパニーなど様々制度があつて、そのような制度は、やはり紹介していくのも必要なのだろうなどは考えていましたので、よろしくをお願いします。

**(横坂競技スポーツ担当課長)**

今のお話に関連しまして、私どものスポーツ医・科学サポート事業の中で、健康づくり支援事業で企業等にスポーツ医・科学指導専門員を派遣し、企業の方々の健康サポートや研修会をを実施している例もございます。まだ例が少ないので、これから更に拡充していくことが必要かなと考えているところですが、取組としては、そういったものを少しずつ取り進めているといったところでございます。

**(平藤会長)**

ありがとうございます。

他にまた何か御意見はありますか。

私からも一つ。16ページに岩手県スポーツ賞が5月11日に行われる予定と書いてあり、今年度の表彰は、時期として妥当だとは思いますが、今年は東京2020大会があるので、大会が終わったタイミングで何か表彰などがあっても良いかなと思います。前回の冬のオリンピックの際は、表彰を4月にやっていますので、臨時というような形で行っていますので、恐らく今回の東京2020大会もメダリストが出るだろうと私は信じておりますので、やはりタイムリーに臨時表彰などをやっていただくのがいいのかなと思います。

他によろしいですか。

「なし」の声

**(平藤会長)**

それでは、この議事(2)「岩手県スポーツ推進計画」の取組状況については、これで以上とさせていただきます。

次に、(3)その他となっておりますが、委員の皆様からこの場で取り上げる議題などございましたら挙げていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

「なし」の声

**(平藤会長)**

それでは、以上をもって議事を終了させていただきます。

#### 4 報告

**(平藤会長)**

次に、「4 報告」でございます。



「(1) ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>岩手・釜石開催に係る報告について」、事務局からの説明をお願いいたします。

### (木村総務担当課長)

オリンピック・パラリンピック推進室兼ラグビーワールドカップ2019推進室の木村でございます。私から説明をさせていただきます。資料No. 3を御覧ください。A 3横のカラーの資料になります。

まず、「1 大会全体概要」でございます。

ラグビーの伝統国以外で初の大会として世界中の注目を集めた日本大会でしたが、岩手・釜石開催を含め、大いに盛り上がったところでもございました。予選プールの3試合が台風の影響により中止となりましたが、全体を見ますとスタジアムでの観戦客が約170万人となり、チケットの販売率にしますと99.3%に上っております。ファンゾーンの入場者が、114万人、パブリックビューイングの入場者が17万人、これらを合わせますと、300万人を超える方々が試合をライブで楽しんだこととなります。大会主催者でありますワールドラグビーのビル・ボーマント会長には、最も偉大なワールドカップとして記憶に残ると述べていただいております。

次に、「2 岩手・釜石開催に向けた2019年度の主な取組実績」でございますが、平成29年4月に釜石開催の実行委員会を立ち上げまして、準備を進めてきたところでもございます。大会年となった昨年については、大会本番における賑わいの創出、観客等の受入態勢の構築、観客等の円滑な輸送の確保、警備・防災・医療など安全安心の確保、この4つの柱で取り組みました。主な取組は、賑わいの創出として、釜石市の試合について岩手・釜石ラグビー応援ガイドブックを日本語と英語の2カ国語で作成し、各開催都市や東北各県の観光案内所、主要な駅などに配架しております。そちらでは、スタジアムへのアクセスやファンゾーンの内容、県内の津波伝承施設の紹介等を通じた復興情報の発信のほか、岩手・釜石の食と観光地などの観光情報の発信も行っております。

また、観客等の受入態勢の構築としましては、写真にある大型オブジェをスタジアム最寄りの三陸鉄道鶴住居駅前に設置しまして、観客等の写真撮影スポットとして装飾を行ったほか、県内各地でパブリックビューイングを実施し、全県的な盛り上げを図ったところでもございます。

次に、「3 パシフィック・ネーションズカップ2019 日本代表対フィジー代表戦」ですが、仮設スタンドを設置し、ワールドカップ本番と同様の1万6,000席で行う初めての国際試合として、観客輸送や医療救護、ファンゾーンの運営テストを行ったところでもございます。観客輸送についてはおおむね順調でございましたが、駅、ライナーバス降車場などからスタジアムまでの、いわゆるラストマイルでの入場待機列の整理や、スタジアムからの帰路の誘導、更に持込み禁止物の周知不足などが課題となりました。資料中一番下の写真は、試合終了後の会場ゲートから鶴住居駅及びバス乗り場へ向かう観戦客の混雑状況になっております。また、熱中症対策としまして、給水所、ミストファンを設けましたが、当日は最高気温が31度と高く、日差しを避けて休憩できる場所が少なかったことなどにより、救護所の利用者が46人、うち救急搬送者が7人となり、ほぼ熱中症の症状疑いでございました。本番では、より多くの外国人の来場者が想定されたことから、会場内での多言

語対応について、更に検討することとしました。

これらの課題について、組織委員会と連携しながら改善策を講じ、右側上になります「4 RWC岩手・釜石開催概要」のとおり、大会を迎えたところでございます。9月25日に行われたフィジー代表対ウルグアイ代表戦については、大会名誉総裁の秋篠宮皇嗣殿下及び同妃殿下の御観戦の下、釜石開催実行委員会が招待した釜石市内の子ども達による復興支援への感謝のメッセージフラッグの掲出や、「ありがとうの手紙」の合唱、選手入場後の黙祷、両国の国旗や大漁旗による応援などにより、復興支援への感謝と復興に力強く取り組む姿を国内外に発信できたところでございます。

また、10月13日に予定されていたナミビア代表対カナダ代表戦については、台風第19号の影響により試合中止となりましたが、カナダ代表チームが釜石市内で台風災害ボランティア活動を、またナミビア代表チームが宮古市で被災した市民を激励する交流会を行うなど、かけがえのない新たな絆が生まれました。この様子は世界中に情報発信されまして、多くの人々に感動を与えるとともに、ラグビーの町釜石、そして岩手を発信する絶好の機会となりました。大会を通じた地域振興、国際交流では、ファンゾーンでのステージイベント、ラグビー体験コーナーのほか、情報発信のブース、そして飲食ブースなどを設置し、国内外から多くの方々に来場いただきました。

また、県内各地で実施しましたパブリックビューイングでは、約5,000人の方々に来場いただき、ラグビーを通じた新たなつながりが生まれる場となりました。

最後に、「5 大会レガシーの継承～ラグビーをはじめとした岩手のスポーツ振興～」については、スポーツの力が県民に大きな活力を与えるということを今回改めて認識するとともに、ラグビー県いわたという面も国内外に発信できたと考えており、大会を記念したメモリアルイベントの実施、さらには釜石市鶴住居復興スタジアムを活用した大会、合宿の誘致、小中学生向けラグビー体験会などに関係団体、県ラグビーフットボール協会等と連携しながら取り組んでいきたいと考えております。

以上で、ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>岩手・釜石大会についての説明を終わります。

**(平藤会長)**

ありがとうございました。

ただ今の報告について御質問、御意見ございませんか。

よろしいでしょうか。

「なし」の声

**(平藤会長)**

それでは、先に進みます。

「(2) 第74回国民体育大会、第19回全国障害者スポーツ大会等の結果について」、事務局から説明をお願いします。

**(横坂競技スポーツ担当課長)**

それでは、「(2) 第74回国民体育大会、第19回全国障害者スポーツ大会等の結果につい

て」御報告申し上げます。資料は、資料No. 4-1、4-2、4-3となり、3枚綴りになっているA3サイズのものを使って説明をさせていただきます。

第74回国民体育大会についてですが、スケート、アイスホッケー大会を皮切りにスキー競技会から本大会ということで1月から10月にかけて開催されました。本県の総合成績ですが、天皇杯の男女総合成績、全国31位、東北2位、得点850点。皇后杯は、女子の総合順位になりますが、全国31位、東北2位、得点507.5点となっております。

右側を御覧になってください。本県の優勝数・入賞数は、優勝数が5種目、入賞数が76種目となりました。優勝の5種目は、アーチェリーが2年ぶり2度目の優勝、弓道が初優勝、陸上競技が2年連続優勝、スケートは3年連続優勝、スキーが3年ぶり2度目となる優勝となります。

次に、資料No. 4-2をお開きください。

第75回国民体育大会は、先日、青森県八戸市等で開催されました。こちらは現段階での総合成績となりますが、天皇杯が15位、61点、皇后杯が21位、42点となり、昨年度よりも順位を上げておりますし、得点も上げております。

「3 入賞数」を見ますと、女子の活躍がとても目立った大会だったと感じております。今後、2月16日からスキーの大会、そして9月、10月には鹿児島で本大会という予定になっております。

次に、資料No. 4-3をお開きください。第19回全国障害者スポーツ大会について報告をさせていただきます。令和元年10月12日から10月14日まで、茨城県水戸市で開催の予定でしたが、台風19号の接近に伴いまして全日程中止となりました。派遣予定の人数は102名、選手60名、介助者を含めた役員が42名となっております。団体競技につきましては、フットベースボール、バレーボール知的男子、バレーボール知的女子の3団体が参加予定となっております。

第20回全国障害者スポーツ大会につきましては、鹿児島国体の後、令和2年10月24日から26日まで鹿児島市を中心としまして13競技で実施の予定ということで会場等も掲載しております。

以上です。

**(平藤会長)**

ありがとうございました。ただ今の報告について御質問ありますか。

「なし」の声

**(平藤会長)**

それでは、進みます。

「(3) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた本県の取組状況について」御報告をお願いします。

**(高松連携調整課長)**

東京2020大会に向けた取組状況を資料No. 5、A3判の資料で説明をさせていただきます

が、「1 大会概要」の内容につきましては、これまで説明させていただきました内容が含まれておりますので、割愛させていただきます。

なお、記述している内容の中で、資料作成時点から修正が出ておりますので、御報告させていただきます。左側の<ホストタウン、事前キャンプ>という黄色い枠内の記述ですが、ホストタウンの数を「18」市町村と書いておりますが、矢巾町が追加になったことにより「19」市町村に変わります。それに伴いまして、隣の括弧書きの欄も2018年度末からの増が「7」市町村と変わります。

加えて「(1) ホストタウン」の黒丸の2つ目、「復興「ありがとう」ホストタウン」の欄に矢巾町が加わることとなります。

「(2) 事前キャンプ：6市町」のところですが、先程、口頭で説明させていただきました。下から2つ目の岩手町の米印で書いているところ、「2月覚書締結予定」となっておりますが、2月6日に締結されました。同様に紫波町、カナダとの覚書締結も2月4日締結済みとなっておりますので、それを付記していただければと思います。

以上で説明は終了させていただきます。

**(平藤会長)**

修正については、繰り返しません。

ただ今の報告について、御質問はございますか。

「なし」の声

**(平藤会長)**

以上で「4 報告」を終了させていただきますが、よろしいでしょうか。

進行に御協力いただきありがとうございます。

それでは、事務局にお返しします。

**(藤田参事兼スポーツ振興課総括課長)**

平藤会長、ありがとうございました。

**5 その他**

**(藤田参事兼スポーツ振興課総括課長)**

それでは、次第の最後でございます。「5 その他」でございますが、委員の皆様から特に御発言等ございませんでしょうか。

「なし」の声

**(藤田参事兼スポーツ振興課総括課長)**

ありがとうございます。

次回の審議会でございますが、6月を予定してございます。改めて御案内等は差し上げますので、よろしく願い申し上げます。

## 6 閉会

(藤田参事兼スポーツ振興課総括課長)

次第の最後でございます。

以上をもちまして本日の審議会は終了とさせていただきます。皆さんにおかれましては、長時間御審議いただきありがとうございました。引き続きどうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

以上